

第3学年 学習指導案

指導期間 平成16年 8月30日～ 9月29日

指導学級 種市町立中野中学校

3年A組(男子11名 女子11名 計22名)

B組(男子12名 女子11名 計23名)

指導者 林崎 浩恵

1 題材名 イメージと強弱や旋律の特徴を関連付けた合唱表現

2 題材について

(1) 題材について

学習指導要領の第2・3学年の目標(2)では、「楽曲構成の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創造的に表現する能力を高める」とし、音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、楽曲の構造的側面への理解を深めて、感性的側面とのかかわりから表現の工夫を求めるところを示している。このことから創造的な表現と音楽的な感受を高めるためには、音楽活動を通して楽曲の仕組みや、それによって生み出される豊かさや美しさを、一層明確に感じ取って表現することが大切になる。そこで、本題材では合唱曲の学習を通して、主に学習指導要領の第2・3学年表現・歌唱の指導事項イの内容に焦点をあて指導する。指導事項イは、「曲種に応じた発声により、美しい言葉の表現を工夫して歌うこと」を指導するように示している。ここで示している内容は、学習の対象としている歌唱曲に対して、生徒自身がふさわしい声の出し方や音色を感じ取って歌うことである。そのためには、楽曲の特徴をとらえて、自己の中にイメージを作って歌うことが大切であり、歌詞の内容を理解し、生徒が言葉の美しさを感じ取ることが必要である。言葉の特性を感じて気を付けて表現するだけにとどめず、曲の中での言葉の価値を見だし、こうすれば言葉をより美しく表現できるということを意識した学習に発展させたい。

(2) 生徒について

生徒たちにとって合唱は、授業・集会・行事を通して身近に歌われているものである。個人差はあるが、歌うことを楽しんでいる生徒が多く意欲的に活動する。しかし、合唱という演奏形態上、一人一人の感性を活かした表現をさせることは少なく、一斉指導で教師の音楽性によって表現させる活動に終始することが多く、集団に頼り埋もれてしまいがちである。また、音楽のとらえ方も個人の趣味嗜好に偏り、広げたり深めたりすることには弱い面がある。

(3) 指導にあたって

教材となる曲に対するそれぞれが感じ取ったイメージと知覚した音楽の諸要素を、初発の受けとめとし、そこから自己のイメージや感情の根拠を歌詞や曲の仕組みの中に見付けるよう、指導を展開する。その際、歌詞の中でポイントになる言葉に着目し、キーワードとして取り上げた上で、「言葉」「旋律」「フレーズ」「拍子」「強弱」「速度」を中心に曲想を感じ取らせ、イメージとの関連付けを図る。そして、言葉のアクセント、リズム、語感による特性、濁音・鼻濁音などの美しい表現の仕方を感じ取って歌唱表現の工夫をさせ、言葉のアクセントや抑揚を生かした歌唱表現につなげていきたい。

3 教材名

混声合唱 3年A組「IN TERRA PAX」、3年B組「Soon-ah will be done」

4 題材の目標

音楽の諸要素の働きと歌詞の内容により生まれる曲想を感じ取り、自己のイメージや感情の根拠を歌詞や曲の仕組みの中に見付け、言葉のアクセントや抑揚を生かしたより豊かな合唱表現の工夫をする。

5 題材の指導計画（全7時間）

- (1) 第1次 教材曲を十分に歌い味わい、曲のイメージや曲想を感じ取り、知覚したその曲を特徴付けている要素を書き出させる。曲の中で、表現の工夫をしたい部分を抽出させ、どのように表現してみたいのか考えさせる。（2時間）
- (2) 第2次 曲に含まれている音楽の構成要素と表現要素を確認し、初めに感じ取ったこと、知覚したことを、確認した音楽の構成要素と表現要素に結び付けて、構造的側面と感性的側面を関連付けさせる。（2時間）
- (3) 第3次 批評文の内容をより具体的に表し、表現の工夫をするアイデアを練る。（3時間）

・主たる指導内容 - 「学習指導要領」表現・歌唱の指導事項【イ】

・副次的な指導内容 - 「学習指導要領」表現・歌唱の指導事項【ア】【エ】【キ】【ク】

| 次 | 時 | 活動のねらい | 学習内容と学習活動 | 指導上の手だて（評価） |
|-----|--------|---|--|---|
| 第1次 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・歌のイメージや雰囲気と音楽の諸要素の働きのかかりについて確認させる ・教材曲を十分に歌い味わい、初発の受けとめとして全体像をつかませる ・知覚したことと感じ取ったことを関連付けるヒントとして「キーワード」を出させる ・曲の中で、表現の工夫をしたい部分を抽出させ、どのように表現してみたいか考えさせる | <ul style="list-style-type: none"> ・既習曲のイメージや雰囲気と音楽の諸要素の働きのかかりについて復習する ・教材曲を簡単にアナリーゼする ・教材曲の歌詞を読んだ感想、範唱を聴いての感想を書く ・歌詞の中でポイントになっている言葉、歌の雰囲気を表すような言葉を探す ・特に表現の工夫をしてみたいところを絞り、どのように表現したいか考える | <ul style="list-style-type: none"> ・歌ったり、範唱を聴いたりして、自由にイメージをもたせ、生徒なりの受けとめを大切にする ・歌詞の内容、曲の構成について分析する ・キーワードを確認する ・表現の工夫をするための課題意識をもたせるようにする |
| | 3 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・初発の受けとめを感じ取ったイメージと、知覚した諸要素とに分類させる。 ・キーワードを音楽の構成要素と表現要素に結び付けて、それをヒントに構造的側面と感性的側面が関連付けられる部分を見付けさせる | <ul style="list-style-type: none"> ・初めにもった感想の内容を、イメージや雰囲気を表していることと音楽の諸要素とに分類する ・曲の中から、イメージや雰囲気と音楽の諸要素が関連付けられる部分を探し出す ・批評文に書いたことをグループで交流する | <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードと旋律との関係を考えさせ、構造的側面と感性的側面の関連付けのヒントにする ・批評文を交流することで、自分の考えを確認したり、他の受けとめ方を知ったりしながら、多様な感じ取りがあることに気づかせる |
| 第3次 | 5 6 | <ul style="list-style-type: none"> ・批評文に書いたことをもとに、表現の工夫を考えそのアイデアを具体的に視覚的に表わさせる | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を生かして、さらにどんなふうに表示したいか考えを書く ・批評文に書いたことをもとに実際に表現するためにどのようにしたらよいか工夫点を考え、イメージスコアにアイデアを書き込む ・アイデアをグループで交流する ・工夫点を実際にやってみる ・グループ内で発表する ・グループで発表された表現の工夫を全体に紹介する | <ul style="list-style-type: none"> ・実際に演奏で表現する方法を考えさせ、自分の言葉などで書き表すように楽譜に書き込ませる ・どういう根拠でその表現方法を選んだのか、どうしてそのような発想が生まれたのかわかるようにする |
| | 7 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループで表現の工夫をしたことを交流することによって、それぞれの受けとめたことや見いだしたことを知覚し合わせ、感受と表現の幅を広げさせる | | |

6 題材の評価規準

【A 表現・歌唱】

| | 観点1 音楽への関心・意欲・態度 | 観点2 音楽的な感受と表現の工夫 | 観点3 表現の技能 |
|---|--|---|--|
| 内容のまとめ りごと の 評 価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容や曲想、曲種に応じた発声や美しい言葉の表現、声部の役割と全体の響きに関心を持ち、曲にふさわしい歌唱や合唱の表現をすることに意欲的である | <ul style="list-style-type: none"> 音楽の構成要素・表現要素を知覚し、それらが生み出す曲想の美しさを感じ取っている 歌詞の内容や曲想の味わい、曲種に応じた発声や言葉の特性、声部の役割と全体の響きの調和を感じ取っている 歌詞の内容や曲想の味わい、曲種に応じた発声や言葉の特性、声部の役割と全体の響きの調和を感じ取って歌唱や合唱の表現の工夫をしている | <ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容や曲想、曲種に応じた発声や言葉の特性を生かして歌唱表現する技能（読譜を含む）を身に付けている 声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱表現をする技能を身に付けている |
| 題材の 評 価 規 準 | <ul style="list-style-type: none"> 音楽の諸要素の働きと歌詞の内容により生まれる曲想に関心を持ち、自己のイメージや感情の根拠を歌詞や曲の仕組みの中に見付けることに意欲的である 曲のもっているよさや特質を味わい、自己のイメージや感情を生かして曲にふさわしい歌唱表現をすることに意欲的である | <ul style="list-style-type: none"> 音楽の諸要素の働きと歌詞の内容により生まれる曲想を感じ取り、自己のイメージや感情の根拠を歌詞や曲の仕組みの中に見付けている 曲のもっているよさや特質を味わい、自己のイメージや感情を生かして曲にふさわしい歌唱表現を工夫している | <ul style="list-style-type: none"> 音楽の諸要素の働きと歌詞の内容により生まれる曲想を感じ取り、自己のイメージや感情を生かして歌唱表現をする技能を身に付けている 曲のもっているよさや特質を味わい、自己のイメージや感情を生かして曲にふさわしい歌唱表現をする技能を身に付けている |
| 学習活動 にお ける 具 体 の 評 価 規 準 | <p>歌を味わい、表現の仕方を考えたり深めたりすることに関心をもっている</p> <p>曲のイメージと諸要素の働きや旋律の特徴との関連に関心をもっている</p> <p>批評文を生かして意欲的に表現の工夫をしている</p> <p>言葉の抑揚、アクセント、リズム、語感による特性、濁音・鼻濁音などの美しい表現の仕方に関心をもっている</p> | <p>曲のイメージや曲想を感じ取り、知覚したその曲を特徴付けている要素を書き出している</p> <p>自己のイメージや感情の根拠を歌詞や曲の仕組みの中に見付け、構造的側面の諸要素と感性的側面とを関連付けている</p> <p>批評文に書いたことをもとに表現の工夫をしている</p> <p>言葉の抑揚、アクセント、リズム、語感による特性、濁音・鼻濁音などの美しい表現の仕方を感じ取って歌唱表現を工夫している</p> | <p>感じ取ったことや、聴き取ったことがよく伝わるように表現している</p> <p>自己のイメージや感情を生かして曲にふさわしい歌唱表現をする技能を身に付けている</p> <p>言葉の抑揚、アクセント、リズム、語感による特性、濁音・鼻濁音などの美しい表現の仕方を生かして歌唱表現をする技能を身に付けている</p> |

7 題材の指導の展開

第1次 全体像をつかむ・・・2時間扱い

目標：曲のイメージや曲想を感じ取り、より豊かに表現したいところを見つけよう

歌を味わい、表現の仕方を考えたり深めたりすることに関心をもつ（観点1）

曲のイメージや曲想を感じ取り、知覚したその曲を特徴付けている要素を書き出す（観点2）

1時間目

| 時間 | 学習活動 | 指導の流れ（働きかけ 手だてにかかわる留意点） |
|----------|---|---|
| 導入 8分 | 1 ウォーミングアップ ・ラジオ体操 ・既習曲を歌う | ・スムーズに歌えるように、雰囲気や体をほぐす ・生徒からのリクエスト |
| 展開 7分 | 2 本時の学習課題を確認する 『音楽分析室』 楽譜を分析して、歌のイメージや雰囲気と音楽の諸要素の働きを確認しよう 「未来」をアナリーゼする ・歌の特徴的な部分を出し合う | ・「未来」を歌う or 聴く この歌の特徴的な部分をあげてみよう 「だった」「まっすぐ」などの促音の表現のおもしろさ ヒント・・・楽譜を眺めて気が付くこと 強弱記号がたくさんある パート毎にずれて入る部分がある など 「例」としてプリントに書き込ませる（模造紙で教示） プリント「音楽分析室」- 1に書き込んでみよう（相談可） |
| 10分 | ・気付いたこと、見付けたことを書き出す（黒：エンピツ） ・パートで交流し、全体に紹介する（模造紙に書き込む） | ・記入の仕方について説明する 1) どの部分かは、“場面”のらんに歌詞（や小節番号）で書く 2) 記号や音の動きの働きがどのようになっているか、自分の言葉で説明するように書く 3) その部分がどんな感じがするのか、イメージや雰囲気を自分の言葉で説明するように書く “働き” “どんな感じ” はどちらから書いてもよい 4) その部分に影響している記号があったら“記号”のらんに書く 5) “要素”のらんに“働き” “記号”のらんに書いたことを手がかりに、音楽のどのような要素がかかわっているか書く（要素はカードにして提示） |
| 20分 | ・自分では気が付かなかったことは色ペンで書き加える 教材曲のアナリーゼをする | もう一步深めた学習をしよう ・教師からの提示 別紙 （大切な要素、生徒が気付かない部分、うまく言葉にできない部分を説明する） 転調の効果 言葉の抑揚と旋律「たてた」 上行形とcresc. 下行形とdecresc. rit. a tempo スラーとフレーズ 音の跳躍 アクセントとテヌート ・その他にもあったら、プリントに色ペンで書き込ませる プリント「音楽分析室」- 2に従って楽譜に書き込みをしよう 拍子・調性・小節番号・形式（ブロック）番号・パートチェック |
| 終末 5分 | 3 教材曲の主旋律を歌う 4 次時の学習内容を知る | ・全体像をつかませる 次の時間は、「 」のなかみに入っていきよ |

2 時間目

| 時間 | 学習活動 | 指導の流れ（働きかけ 手だてにかかわる留意点） | |
|----------|--------------------------------------|---|---|
| 導入 8分 | 1 ウォーミングアップ ・ラジオ体操 ・教材曲の主旋律を歌う | ・スムーズに歌えるように、雰囲気や体をほぐす | |
| 展開 | 2 本時の学習課題を確認する | 曲のイメージや曲想を感じ取り、より豊かに表現したいところを見つけよう | |
| | 3 「 」の全体像をつかむ | ・【学習シート No,2 - 1】・・・第一印象はどうか？ 初発の受けとめ 感想と好きな部分や気に入った部分を書かせる（理由も） 歌詞の内容からどのようなイメージをもったか、感想を書こう | |
| | 5分 | ・歌詞を朗読し、イメージをつかむ | |
| | 5分 | ・範唱を聴いて、イメージをつかむ | 範唱を聴いてどのようなイメージをもったか、感想を書こう |
| | 10分 | 4 キーワードを探す ・歌詞の中から ・歌の雰囲気から | ・【学習シート No,2 - 2】にキーワードを書かせる 歌詞の中でポイントになっている言葉を考える 歌のイメージや雰囲気をひと言で表すような言葉を考える ・出てきたキーワードをカードにして貼っておく [カード] |
| | 15分 | 5 「 」のパートの音をとる | ・ローテーションでパートテープを聴く、教師と一緒に歌う |
| 5分 | 6 表現の工夫をしたい部分をピックアップする | ・【学習シート No,2 - 3】 曲の中で、表現の仕方を考えたり深めたりしたい部分はどこですか (歌詞・ドレミなどの音名・小節番号・ブロック番号)で書こう その部分をどのように表現してみたいと思っているか書こう | |
| 2分 | 7 次時の学習内容を知る | | |

第2次 関連付ける・・・2時間扱い

目標： 自分もったイメージから、なぜそのように感じたのか、曲に含まれている要素からどんな感じがしたのか考えよう

曲のイメージと諸要素の働きや旋律の特徴との関連に関心をもつ（観点1）

構造的側面の具体的な諸要素を提示し、感性的側面と関連付ける（観点2）

感じ取ったことや、聴き取ったことがよく伝わるように表現している（観点3）

3時間目

| 時間 | 学習活動 | 指導の流れ（働きかけ 手だてにかかわる留意点） |
|-----------|--|--|
| 導入 13分 | 1 ウォーミングアップ ・パート練習 ・教材曲を合唱する 2 本時の学習課題を確認する | ・スムーズに歌えるように、雰囲気や体をほぐす ・イメージを大切に、各自が指摘した部分の表現を意識させながら歌わせる |
| 展開 5分 | 3 歌のイメージと諸要素の分類をする | ・【学習シート No,3 - 1】 前の時間に書いた感想の内容を、「音楽分析室」で学習したことを思い出して、イメージや雰囲気をあらわしていることと、音楽の諸要素とに分けてプリントに書こう そのとき、イメージや雰囲気と音楽の諸要素が結びつくようであれば、横に並べてつながるように記入する。結びつかず、それぞれバラバラの内容であれば、段をずらして別々の項目になるように書く[板書例] 書き終わったら、区切り線を引かせる |
| 10分 | 4 キーワードを探る | キーワードが音楽の諸要素によってどのように表現されているか考えてみよう ・キーワード（言葉）の表現 構造的側面とのかかわりを知らせる アクセント、抑揚、強弱など、アーティキュレーション、必要に応じて、場面によっては範唱を聴いてみる |
| 20分 | 5 歌のイメージや雰囲気と音楽の諸要素の働きとのかかわりを探したそう | ・【学習シート No,3 - 1】 このように、私たちが感動したり、癒されたりといった歌の味わいは、歌詞の内容、言葉の表現と音楽の諸要素の働きがかかわりあって生み出されています。このことに具体的にたくさん気が付けることは、音楽をより深く、より身近に感じることにつながります（表現の技能にも） ここが今回の授業でとても重要な部分なので、【学習シート No,3 - 1】で分類したことをもっと増やしてふくらませてみよう。（相談不可） まず、分類したことでらんが片方だけになっているところがあったら、もう片方を埋めてみよう（色ペンで）。ない場合は、曲の中にまだまださうゆう（歌のイメージや雰囲気と音楽の諸要素の働きとのかかわりある）部分があるので、探して区切り線の下に書き足していこう（色ペンで） ヒント・・・「キーワード」「音楽分析室」 |
| 終末 2分 | 6 次時の学習内容を知る | 一つでも二つでもいいので、区切り線の下に増やしていこう。家で考えてきてもよいし、次の時間にもう少し時間をとってよい。発表しあうよ |

4 時間目

| 時間 | 学習活動 | 指導の流れ(働きかけ 手だてにかかわる留意点) |
|------------------|--|---|
| 導入 15分 | 1 ウォーミングアップ ・パート練習 ・教材曲を合唱する 2 本時の学習課題を確認する | ・スムーズに歌えるように、雰囲気や体をほぐす ・イメージや雰囲気と音楽の諸要素の働きを意識させながら歌わせる |
| 展開 15分 15分 | (前時の続き) 3 グループで交流する | 書き終わったら、区切り線を引かせる ・【交流カード】 【学習シート No,3 - 1】に書いた内容をグループ内で発表し合います グループは・・・ グループの人の発表を聴いて、共感できるものがあったら、区切り線の下に色ペンで書き足して下さい グループで批評文を交流することによって、それぞれが受けとめたことや見いだしたなかみの違いや共通点を知覚し合わせる |
| 終末 5分 | 4 本時のまとめをする 5 次時の学習内容を知る | グループの人の発表を聴いた感想を書こう 次の時間は、ここまでの学習を生かして、実際に表現するための工夫を考えるよ |

感じ取ったイメージや雰囲気と音楽の諸要素のかかわりをたくさん見つけよう

第3次 表現の工夫をする・・・3時間扱い

目標：歌詞や曲想にあった表現の工夫をして、より豊かな合唱表現を見つけよう

批評文を生かして意欲的に表現の工夫をする。(観点1)

批評文に書いたことをもとに、表現の工夫をする(観点2)

音楽の諸要素の働きと歌詞の内容により生まれる曲想から自己のイメージや感情を生かして、歌唱表現をする(観点3)

5時間目

| 時間 | 学習活動 | 指導の流れ(働きかけ 手だてにかかわる留意点) |
|----------|---|---|
| 導入 7分 | 1 ウォーミングアップ ・パート練習 ・教材曲を合唱する | ・スムーズに歌えるように、雰囲気や体をほぐす ・キーワードやイメージを大切に、各自が指摘した部分の表現を意識させながら歌わせる |
| 展開 5分 | 2 本時の学習課題を確認する 3 表現の工夫をする ・どんなふうに表現したいか | イメージや雰囲気を感じ取ったこと、音楽の諸要素を生かして表現の工夫をしよう ・【学習シート No.4 イメージスコア】 ここまでの学習を通して、さらに「こんなふうに歌ってみたい、あんな感じで表現したい」というこの曲に対する思いがふくらんでいるとよいです。【学習シート No.4】にこの曲全体をどのように表現したいか、【学習シート No.2-3】でピックアップした部分について考えが深まって、もっとこうしたいということを書き加えよう。また、別の部分でも「こんなふうに歌ってみたい、あんな感じで表現したい」という気持ちになったところがあったら、書いてみよう。 実現するために必要な諸要素の設定、技能的なことを考えさせる 【学習シート No.2,4-1】に書いたことをもとに、実際に表現するためにどのようにしたらよいか工夫点を考え、イメージスコアにアイデアを書こう。 ・記入の仕方について説明する 1) 全部だと大変なので、自分がピックアップしたところだけに限定 2) イメージスコアは[楽譜][歌詞][白紙]の3種類の用紙を準備(自分の書き込みしやすいものを使う) 3) 自分の思いや考え、学習シートに書いたことを目で見分けるように自由に工夫して示してみよう。線・文字の大きさ・注意書き・囲み・イラストなど何でもよい。 書いているうちにアイデアが浮かんだら、どんどん増やしてよい - 作業 - |
| 35分 | ・イメージスコアに表現の工夫をするアイデアを書く | |
| 終末 3分 | 4 次時の学習内容を知る | ・書き上げたら提出 コピー 次の時間は、このイメージスコアをグループで交流します。まだ完成していない人は__までに仕上げてください。 |

6 時間目

| 時間 | 学習活動 | 指導の流れ(働きかけ 手だてにかかわる留意点) |
|-----------|--|--|
| 導入 5分 | 1 イメージスコアを想起しながら合唱する | ・それぞれがイメージスコアに書いたことを意識して歌うようにさせる |
| 展開 12分 | 2 本時の学習課題を確認する イメージスコアを生かして、表現の幅を広げよう | |
| | 3 イメージスコアの交流 ・工夫点をグループ内で発表する | アイディアを書き込んだ楽譜をグループ毎にコピーし、配布する 交流会の進め方を説明し、役割分担をする ・【交流カード】 発表する前に、「表現の工夫をした部分」と「なぜその部分を選んだのか(理由)」を話し、「どんな考えでどのように表現を工夫してみたのか」実演しながら説明してください 発表がおわったら【交流カード】に全体的な感想とグループの人へのアドバイスを記入してください 発表3分(×3)+カード記入3分 観察・ビデオ撮影 |
| 30分 | 4 発表の内容をグループでまとめる | グループ内でどのような表現の工夫が発表されたか、全体に紹介できるように相談する。(まとめるポイントを提示する 補助シート) |
| 終末 3分 | 5 次時の学習内容を知る | グループ内でどのような表現の工夫が発表されたか、簡単に紹介してもらいます。 |

7 時間目

| | | |
|-----------|--|--|
| 導入 5分 | 1 自分なりの工夫を生かして合唱する | ・イメージスコアを生かして表現の工夫をしたところを、実際に歌で表現するように歌わせる |
| 展開 20分 | 2 本時の学習課題を確認する 表現の工夫を交流し合って、表現の幅を広げよう | |
| | 3 各グループの発表の内容を全体に紹介する | ・【交流カード】 グループ内でどのような表現の工夫が発表されたか、簡単に紹介してもらいます。 観察・ビデオ撮影 3分×6グループ 発表がおわったら【交流カード】に感想を記入します |
| 20分 | 4 まとめのパート練習をする | ・これまでの学習を通して考えたこと、感じ取ったこと、表現の工夫をしたことを生かすように歌わせる ・お互いの表現の工夫を取り上げて歌ってみる |
| 終末 5分 | 5 題材のまとめをする | ・それぞれの感じ取り方、表現の工夫を大切にしながら、これからの合唱活動への意欲を喚起するようにする |